

## 2008 春闘の位置づけについて - 分配是正へ 月例賃金改善を重視 -

JR 連合事務局長 松尾啓史

JR 連合では、自ら策定した「中期労働政策ビジョン」に基づき、春季生活闘争をはじめとする諸労働条件向上の取り組みを行っている。中でも賃金については「最大の労働条件」との認識に立ち、この間も積極的なベースアップ要求を掲げ、月例賃金の引き上げに徹底的に拘ってきた。08 春闘においても、JR 連合は一丸となって取り組む決意にある。

### 1. JR 単組の 08 春闘

JR 連合が発足して間もない 92 年当時、民間企業水準との賃金水準の較差は 10 ポイントを超えていた（ラスパイレス比較による）。以降、毎春闘で月例賃金の改善に拘る交渉を行う傍ら、賃金実態調査を定例化して、較差分析を行ってきた。05 春闘では具体的な目標水準として「上位目標賃金」「必達目標賃金」の二つを掲げ、それぞれとの較差を明示する中で春闘を構築してきた。昨年までの 3 年間は、「JR 労働者としてクリアすべき水準」即ち「必達目標賃金」へ、すべての JR 単組が到達することを目標として月例賃金の改善に取り組んできた。結果として、厳しい情勢下でありながらも、全ての JR 単組が賃金カーブを維持すると共に、一部ではベースアップを獲得するなど、JR 連合総体としては着実に賃金水準の維持・向上を果たした。さらに一部では、労使間の真摯な交渉に基づき賃金制度が改正され、全般的な賃金水準の引き上げも実現した。しかし、残念ながら目標を完遂するには至っていない。また、さらなる高みをめざす「上位目標賃金」については、殆どの JR が到達していない。こうした現状を踏まえ、08 春闘では再度目標賃金を掲げ、これに到達するために一丸となって闘うことを確認した。

現下の労働者を取り巻く環境は、実質増税等による可処分所得の低下や石油関連製品の高騰、昨今は食品をはじめとする日用品にまで値上げの波が押し寄せ、日常生活での圧迫感の日を追う毎に増している点も、労働組合として看過できない。企業業績が空前のレベルに達する中、連合が提唱する「労働分配率の是正」の取り組みに、JR 連合としても積極的に取り組む責務があると認識している。従って、08 春闘は賃金引き上げの要求根拠として、連合の一員として、成果配分是正に取り組む、可処分所得の目減りに歯止めをかける、適正な配分を求め、労働分配率の低下に歯止めをかける、目標賃金への到達をめざす、賃金水準が比較低位にあるグループ労働者への波及を促す、以上 5 点を掲げ、統一ベア要求 3 0 0 0 円を基本として、月例賃金改善を重視した交渉を展開する。なお、契約社員ならびにパート社員についても積極的に労働条件改善を求めることとし、連合の方針、さらには改正パート法の施行や地域最賃の引き上げをふまえた「基本賃金の 3%、時間給 30 円以上の引き上げ」を要求する。併せて、ワークライフバランスや男女平等の視点に立った制度要求についても掲げ、「総合生活改善」の位置づけで、08 春闘についても積極的に取り組んでいきたい。

## 2 . グループ労組の 08 春闘

JR 連合に結集する JR 関連企業労組（グループ労組）は現時点で 73 労組を数え、JR7 単組と連携して、JR 連合運動の推進に取り組んでいる。中でも春季生活闘争については、03 春闘より「グループ春闘」として、積極的、主体的な諸活動の展開を行ってきた。賃金目標についても、独自に実施する賃金実態調査に基づき、加盟全単組が到達すべき「最低到達目標賃金」、将来的に到達すべき目標としての「必達目標賃金」、そして様々な職種が結集していることを考慮し、それぞれが目標とすべき「分科会到達目標水準」を設定して、月例賃金の改善に取り組んでいる。加えて、連結経営下においてグループ各企業に大きな影響力を持つ JR 各社に対しては、対応する JR 単組がグループ労働者の労働条件向上を積極的に申し入れ、グループにおける労使交渉を強力にサポートしてきた。こうした取り組みが奏功し、06 春闘に続き 07 春闘においても、一部ではあるがベアを獲得するなど、「グループ春闘」は着実な前進を刻んでいる。しかしながら、依然としてグループ労働者の労働条件は比較低位におかれているのが実態である。「同一価値労働同一賃金」の立場からも、またグループ企業の健全な育成のためにも、より積極的な労働条件改善が求められていることは論を待たない。08 春闘においては、連合の掲げる「定期昇給相当分混み 7000 円要求」を軸に、積極的な月例賃金の改善に加え、JR 単組と同様に、ワークライフバランス、男女平等、そして契約社員・パート社員の労働条件改善にも取り組んでいきたい。

以上